

令和7(2025)年度 第2回 下都賀地区臨時採用教員研修会を開催しました

日 時：令和7(2025)年8月20日(水) 9:20~12:10

会 場：栃木市大平文化会館・大平公民館・大平勤労青少年ホーム

参加者：(1) 栃木県教育委員会採用の臨時採用教員及び非常勤講師の希望者

(2) 市町教育委員会採用の期限付き教員及び非常勤講師の希望者

1 研修内容について

- (1) 目的 ①学習指導、児童・生徒指導及び学級経営等について基礎的な指導力の向上を図り
自信と希望をもって日々の教育活動に取り組めるようにする。
②臨時採用教員の任用に関することや、服務規律の確保に努めることなど、教員としての使命を自覚し、自己啓発に努める姿勢を養う。
- (2) 内容 ○講話・説明 ①「臨時採用教員の任用について」
②「本日の研修の進め方について」
○学習指導に関する講座、児童・生徒指導に関する講座(各6講座)

2 本研修で確認したこと

- (1) 臨時採用教員の任用について
○令和7年度臨時的任用希望調査(今後の予定)等について
○教育公務員としての心構え・服務について
・体罰及び言葉による暴力の禁止 ・交通法規の遵守
・わいせつ行為、ハラスメントの禁止 ・個人情報漏洩・流出の防止
・教育公務員としての身だしなみ(服装、髪型、アクセサリー等)
・SNS等による職務上知り得た情報の拡散、SNS等を利用した出会いの禁止
- (2) 本日の研修の進め方について
○本研修の目的の確認
○主体的に研修に参加するための心構え

3 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉から)

【第一部 学習指導に関する講座】

- 算数科での安心感・達成感のある授業づくりに向けて、その教科に合わせて自己選択や自己決定の場を設ける、分からないことをわからないと言える人間関係の形成、学級づくりをしていく必要があると改めて感じることができました。また、振り返りの書き方を工夫することで、教師自身が児童のその日の理解度を把握するだけではなく、児童自身にもその日分からなかったことを確認させ、その後の自主学習などに生かすことができると知ることができました。
- 生徒の良さや得意に気づき、それを生かすことで生徒が活躍できる授業づくりにつながるのだと感じた。活躍できることで、自信につながりもっと知りたい・やりたいといった意欲につながれば良い循環がうまれるだろうと感じました。そのために、教師自身が楽しんでやってみて、改善するということが必要だと気づきました。
- 「書くこと」に困難を感じる児童生徒への手立てとして、特別支援教育の視点で指導するとい

うのが印象的でした。児童生徒が「書くこと」のどの段階で困難さを感じているのかしっかりと見極め、それぞれのレベルに応じた支援をすることを心がけていきたいと思いました。

- 「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の視点とポイントが大変参考になりました。今後私が特に挑戦したいと思ったことは、児童に自己選択や自己決定をさせられる場面を多く設けるということです。教師から指示したことは、基本的に受動的な行動へと移ります。算数が得意ではない児童にとって、やらされるという感情を極力抱かせないような働きかけをすることは、教師にとって不可欠であることに気がきました。
- 道徳の授業をしています。いつもこの自分の教え方、考え方でいいのか悩んでいました。そのため、今回の講座がとても勉強になりました。特に学んだのは、「自分だったら」というように、自分に置き換えて考えるということです。そうすることで、より深く考えることができ、自分の生活との関わりのなかでも考えられるようになって感じました。

【第二部 児童・生徒指導に関する講座】

- まだ、ICT 関係のトラブルに直面したことはないが、いつでも起きる可能性がある身近な問題なのだと感じました。端末を使うことならではの課題もあれば、そもそも人間関係などの課題もあり、ICT だからと分けて考えるものでもないなと感じました。情報モラルを養いつつ、どう人と協力して生活をしていくのかを生徒に考えさせるような指導を心掛けようと思いました。
- 児童の間で多様なトラブルが起こる中、どのトラブルに対しても、管理職への報連相やスピード感のある対応が重要であると改めて感じました。また、教師の先入観にとらわれることなく、子どもに気持ちに寄り添いながら指導していくことで、子どもに安心感をもたせることができるようになりました。
- 児童全員に平等に接しているか問われたとき、自分はどうかと振り返りました。人によって、たくさん接している児童がいれば、あまり深く関わっていないと思う児童が浮かびました。また、関わり方で日常会話が多い子、注意等が多い子、褒めることが多い子と特定のことで接しているなと思いました。今回の研修から、接し方やその児童の違う側面を発見したり、様々な場面で声かけをよりしたりしないといけないと思いました。
- 学級目標を活用した学級経営として、何のために学級目標をつくるのかを教師が考えることと子どもたちにも意識付けできるようにすることが大切だと学びました。そのためにも、自分がどんな子ども、どんなクラスにしたいのかというビジョンをもつことがとても重要だと気がきました。学級目標をつくり定期的に振り返ることは、学級の中で学びを振り返ることにともなうため、振り返り同様大切にしたいと思います。
- 1学期を過ぎて、この子はこう。あの子はこう。などと私はクラスの子たちのことを知っている気になっていましたが、それは一つの側面に過ぎないと感じました。また、それを子どもに対して伝えていなかったと振り返りました。児童生徒と信頼関係を築くことの重大さに改めて気がきました。2学期初めの1週間は気分が乗らない子どももいると思うので、自分の言葉に気を付けながら良いスタートがきれるようにしていきたいです。

